

ミャンマー日記 (2009年3～4月)

海外体験記：その1、「ビルマと私」は1996年で完結した。と思ったら、2009年1月、ビルマ（現ミャンマー）再訪の声が掛かった。ベンガル湾で発生したサイクロンが去年の5月、ミャンマーの首都ヤンゴン市を含むデルタ地帯を直撃し、10万人以上の死者が出た。国際協力機構（JICA）は被災地を支援するため調査団を派遣することになった。

1月某日

「めじろ」や「ひよどり」と暮らす中、三井造船から電話を受けた。コンサルタント会社がミャンマーへ派遣できる造船の専門家を探しているという。久しぶりのミャンマー、その後どうなったか興味もあったので引き受ける由、回答した。

2月某日

コンサルタント会社と派遣契約をし、3月出発に決まった。被災したヤンゴン港と内陸水運の復旧を図る調査において、船舶を修理するための設備改善と技術支援が私の担当である。1999年、セブで会ってから連絡が途絶えていたミャンマー造船所の社長（パーシーさん）に訪緬する由、E-メールを送った。翌日、返信メールが届いた。パーシーさんからではなく今の社長からである。パーシーさんは2年前に亡くなった、私の来緬を歓迎すると。

3月18日

ハワイの時差ぼけが残ったまま成田空港に向かう。搭乗手続きをし、免税店でタバコとウイスキーを求める。ところがバンコクで乗り換えるとき、ウイスキーは持ち込めないと店員がいう。仕方がないのでウイスキーはバンコク空港で買うことにして、JALに搭乗する。久しぶりにビジネスクラスの飛行を楽しみ、バンコクに到着する。新しいバンコク空港は広い。20分ほど歩かされ、ようやくタイ航空の乗り換えゲートに着く。1時間ほどの飛行でなつかしのヤンゴンに到着すると夜になっていた。空港の設備やシステムは改善され、昔は2時間余りかかった入国手続きも簡単に終わる。迎えの車で市内に向かい、民族衣装を着た案内嬢に迎えられパークロイヤルホテルにチェックインする。



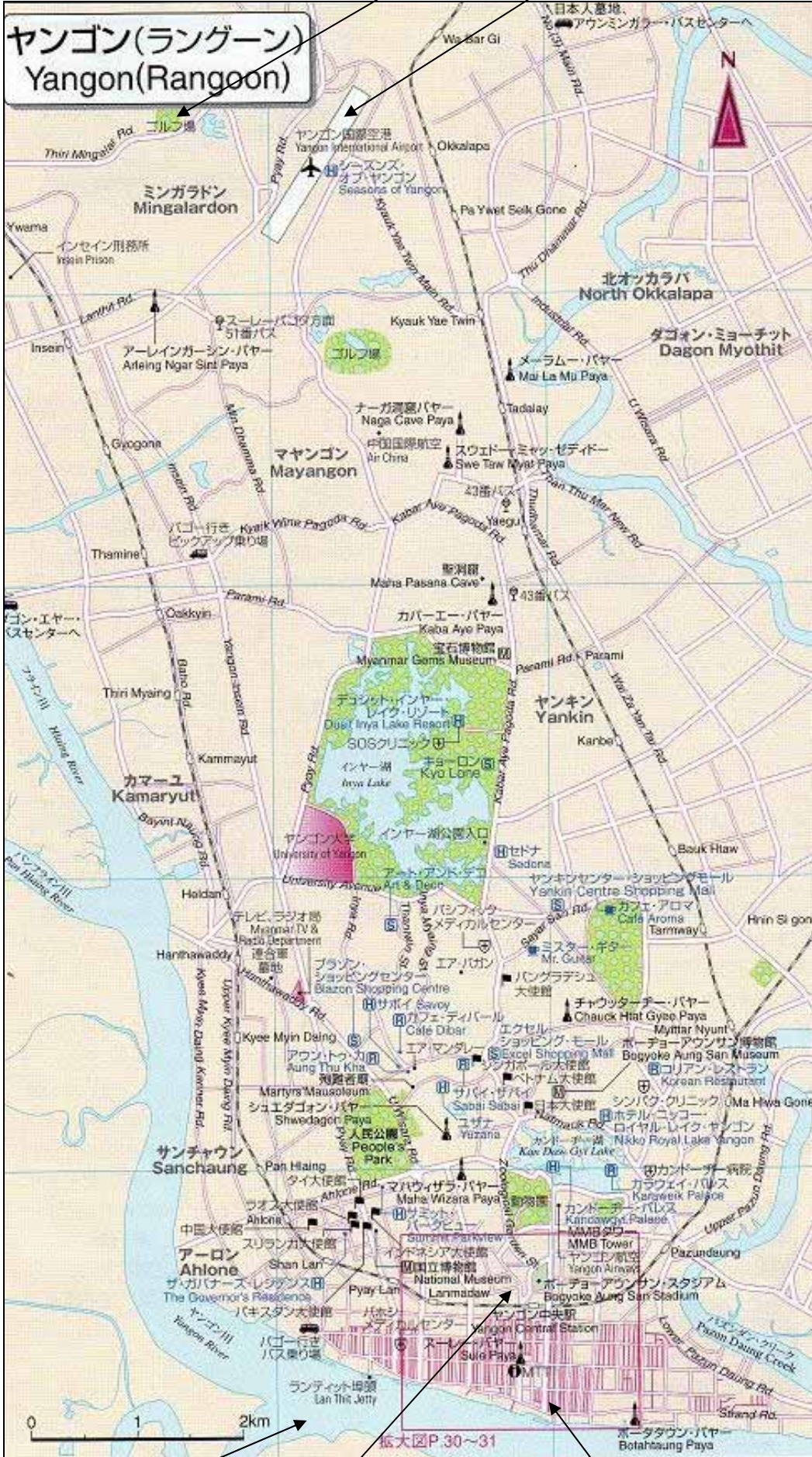
パークロイヤルホテル



民族衣装の案内嬢

ゴルフ場

飛行場



ヤンゴン川

パークロイヤルホテル

港湾局、内陸水運局

3月19日

仕事の面でも生活の面でも、パソコンは必需品である。ホテルのビジネスセンターへ行き、部屋にインターネット回線をつないでもらう。使用料は US\$60/月。ホテルの隣にショッピングモールがあり、生活用品は揃っている。入り口で手荷物を検査され、金属探知のゲートを通らなければ入れない。最近頻発している爆弾テロを警戒しているようだ。万引き防止のため出口に探知機をおく日本の店とは反対である。ミャンマー、タイ、ドイツ、アメリカの缶ビールが棚に並んでいる。値段をみるとなぜかタイのビールが一番安い。60 円ぐらい。アメリカのパドワイザーは 160 円の値がついており、反米感情がビールにも表れている。パソコンとビールの準備が整い、また、ミャンマーの生活が始まった。

3月21日

仕事の相手は港湾局と内陸水運局である。どちらの事務所もイギリスの植民地時代に建てられた古い建物だが、外観は立派である。100 年前のエレベーターは動いているが、乗るには運転技術と勇気がいる。



内陸水運公社（手前）と港湾局（奥）



水運局の女子職員（フェリーにて）

今日もヤンゴン川の対岸にあるドックヤードに向かう。フェリーボートで一緒に行く水運局の女子職員とはすでに顔なじみである。

ホテルに帰りインターネットにアクセスするが繋がらない。E - メールもだめである。ビジネスセンターで確認すると、電話局が回線工事中で 4 月 1 日まで駄目だという。やはり、ここはミャンマーだとあきらめる。

ホテルの部屋で衛星放送 TV が見られる。チャンネルはたくさんあるが、日本の放送は NHK World だけである。ライブでニュースが見られるので、これ以上贅沢はいえない。

3月某日

ミャンマーに来て 1 週間、下痢に見舞われる。食べ物か、飲み水か、それともビールか、原因はわからない。朝はおかゆを少々、昼は抜き、夜は正露丸を飲んで早く寝た。おかげで週末のゴルフができるまで回復した。ビールは無理だが、ペットボトルの水はコーヒーマーカーでボイルしてから飲むことにした。

3月某日

国軍記念日という名の休日である。仲間を誘って朝早くヤンゴンゴルフ場に向かう。1909年にオープンしたので今年でちょうど100年である。先週は100周年の記念コンペが行われたという。なじみのキャディが待っていた。ヤンゴンで最初のキャディはすでに死んだという。まだ50にはなっていないのに。合掌。前回から12年、キャディがユニフォームを着て、ニッパヤシだった茶店がきれいになっている。トイレが水洗になっているのには驚いた。コースレイアウトは変わっていないが、以前ショットの邪魔をした多くの古木はサイクロンで倒されていた。



3月某日

ミャンマー造船所を表敬訪問する。社長は変わっていたが、歓迎される。昔なじみの秘書たちも元気である。帰りにシュエダゴン・パゴダを訪れる。外環は修理工事中で、足場が黄金の輝きを隠している。このパゴダには東西南北の参道があり、裸足になってお参りするのだが、北側の参道には立派なエレベーターが建っていた。



3月某日

サイクロンで被害を受けた船着場の調査に出かける。37のうち24の船着場が壊れたという。曲がった栈橋、沈んだポンツーン、大型船が漂流し破壊した岸壁の状況を見る。修理する金に乏しく、復旧には時間がかかるが、人々は皆まじめに働いている。日本の援助で早く元の姿に戻ることを願う。



引き上げられた船



沈んだ船と壊れた栈橋

4月2日

インターネットはまだつながらない。Myanmar Teleport から「回線工事中であり、いつ終わるかわからない。ご不便をかけて申し訳ない」というメッセージが送られてきた。海外生活では「あわてず、あせらず、あきらめず」でやってきたが、もう「あきらめる」ことにする。

3月はじめ、ハワイで暮らしたホテルは全館禁煙だった。節煙パイポを持参し、この喫煙地獄を乗り切った。帰国後も節煙に努めたが、ここミャンマーは喫煙天国である。インターネットがつかないイライラがつのり、喫煙の量は日毎に増えている。この1ヶ月あまりの節煙努力は水泡に帰した。

4月某日

今回世話になった秘書のエイさんに、次ミャンマーに来るとき日本の土産を持ってくる、貴女は何が欲しい?と聞いた。彼女は「Sushi」という。それは難しいという、それでは巻き寿司を巻く竹の道具が欲しいという。自分で巻き寿司を作りたいらしい。ジェスチャーを交えてのやり取りだったが、巻き寿司用の竹の道具と海苔を持ってくると約束した。



執務に励む私



秘書のエイさん

4月8日

テレビのニュースで金本の3打席連続ホームランを見た。アニキありがとう。昨日はHTの大逆転勝利に酔いしれた。この調子なら優勝間違いなし。早く帰国して、六甲おろしを歌いたい。

4月9日

ヤンゴンの町は水祭りの準備を始めている。ミャンマーは4月10日から20日まで新年と水祭りのため休みとなる。その間、我々は帰国する。チェックアウトの清算でホテルの請求書を見るとインターネット代がUS\$60となっている。回線が不通のため半分も利用できなかったのがディスカウントを要求した。会計系の女性は20%引きにするという。50%引きを要求するとマネジャーが出てきた。次回もこのホテルを利用するという条件で50%引きの交渉は成立した。

夕方の便でバンコクへ向かった。今日はバンコク泊で明日の朝、成田へ向かう旅程である。バンコク空港に着くとJALの係員が出迎えのプラカードを持ち待っていた。その中に私の名前がある。ホテルへ案内してくれるのかと思った。係員の話では、明日搭乗予定のフライトは

機材の都合であなたの席が確保できない。すぐ夜行便に乗り継いで成田に行ってもらえないかという。これからホテルに行き、明日の朝、また空港に来るのも面倒なのでOKした。同様の客5人とJALの乗用カートに乗り、搭乗ゲートに向かう。我々の搭乗を待っていた飛行機は我々を乗せるとすぐバンコク空港を離陸した。

4月10日

5時間余りの飛行で少し眠り、朝6時過ぎ成田に到着するとJALの係員が待っていた。協力金の支払い手続きをするという。30,000円を手にして自宅へ向かう。オーバーブッキングのため乗れない客に対し、次の便にしてくれと協力を頼むケースがあることは知っていた。しかし、今回の様に予定より早く着き、協力金を頂けたのはラッキーだった。



(つづく)

ヤンゴン河から町を望む